



へお寺の聞法板へより

「木や草と人間と、どこが違うだろう
か。みんな同じなのだ。一所懸命生
きようとしているのを見ると、時に
は彼らが人間より尊いとさえ思われ
る。彼らは時がくれば花をさかせ実
を实らせ自分を完成する。それに比
べて人間は何一つもしないで終るも
のもある。木に学べ、草にならえと、
今日も一本の道を歩いていく。」

―詩人・坂村真氏―

目次

平成七年三月

☆世界に広まる浄土真宗……アグネス・エンジエスカ 土岐慶哉(訳) 1	☆遠い日の記憶 ―巖教也君を偲んで― ……藤澤量正 4	☆あなたとともに ……岡橋聖舟 9	☆不定説法 ²⁶ ……宇野哲應 13	☆新・『今月の顔』 ⁶ 梯 實圓師 ……北原光 18	☆あれやこれや ……足利孝之 20	☆慈光こぼれ話 ²⁴ ……加藤教順 23	☆俳句 ……木津杏堂 25	☆新たんぽぽ ⁴ ……滝本誠海 26	☆ビハーラ講座 ¹ いのちをみつめる(一) ……日野和憲 30
---------------------------------------	--------------------------------	-------------------	-------------------------------	---------------------------------------	-------------------	---------------------------------	---------------	-------------------------------	---

表紙絵……清野 蒼花 カット……ちが・いはほ

世界に広まる浄土真宗

アグネス・エンジエスカ

土岐慶哉（訳）

今日、^{こんにち}私たちはみな、世界がどう変転しつつあるかを注視しています。政治・経済・科学の新しい状態と発展が、諸国民や社会に従来の伝統的な、十分定着した見解の再検討を促しております。

比較的最近の、かような一つの発展が日本人社会の国際化のスピードであります。

この現象はすべての方面に看取されます。最も伝統的な、日本固有と考えられている分野でも例外ではありません。私たちは、外国人が伝統的な日本音楽を演奏したり、書道を学んだり、

日本の僧になったりしているのを見ています。

現代はまさに、「大変革の時代」なのです。国籍の如何を問わず、世界の女性はすべて、家庭生活のみをするか、それとも主として生涯の専門職をもって社会に参加するかを自らの心で選択しようとしているのです。

男性は男性で、大切な心の支持を与え、盛壮年代はもちろん、その後も働き続けて、日常の家庭生活にも従来にも増して、参加しようとするようになっていきます。すべての民族の人たちがいろいろな宗教と異なった文化的伝統に従い

ながら、彼らの経験を伝達し交換し始めました。それは人類のすべての面の発展に加速を創り出したのです。

私見ですが、浄土真宗のみ教えの真の国際化は人類にとって最も重大な利益りやくであると考えております。

浄土真宗は日本に興り、護られ、今までは日本人によって伝えられたけれども、このみ教えは仏陀の教え、法ダラムのあらわれとして、普遍的、世界的なもので、そもそも初めからすべての人々、それを奉じうる一切衆生に捧げられたものでした。

それぞれの仏教の伝統（宗派）が一定の国民と文化の基礎の上に築かれたということは事実ですが、それらのすべてが一つの例外もなく、慈悲と智慧の産物として一切衆生に捧げられたものなのです。

仏の教法は国籍・言語・文化等の違いを超えて働きます。仏の立場からすれば、あらゆる人々、あらゆる存在は平等なのです。すべての私たちの違いは私たち自身の所産、人間の業カルマであります。私たちの不幸な行為が別離・孤立・実存的恐怖・孤独・苦を招くのです。悲智円満のみ教えは安楽への賢い方法であり、私たちの無知な生活の結果から解放され、我々によって人工的に造られた相違点を解消してしまいます。仏陀の真髄としての慈悲と智慧とは浄土真宗において、最も普遍的に宣言せられているようであります。

浄土真宗は日本人移民によって外国へ大分前にもたらされ、異国での不安をやわらげ、一種の社交場としての役割を果していたものの、浄

土真宗の本義は常に同じで、将来も変わらぬでしょう。

それは、名号南無阿弥陀仏の中に具体化された阿弥陀仏の清浄な善根功德を蒙って、仏となる教えであります。この教えは阿弥陀仏が日本人たる親鸞聖人に示されたものですから、日本流にナモアミダブツとして最もよく知られています。

今日、^{こんにち}日本の遺産をもたぬ人々、私のような、以前に日本と何ら関係のなかった人たちが本願と名号に呼びさまされているのです。

私たちは日本からの移住者の子孫たちが浄土真宗を単に先祖の伝統と見て、基教徒となる例も見ております。

伝統というものは、人間の心の産物であり、他の産物同様、完全無欠のものではありません。どの伝統にもプラス面もマイナス面もございま

す。私たちが生き残るのに役立つのもあれば、進歩を止めてしま^とう場合もありましょう。

浄土真宗の日本の伝統をして、南無阿弥陀仏によつて、衆生を仏とならしめる世界的伝統へと発展せしめましょう。

：ハワイ本派機関誌「メッター」、一九九四年九月号所載、筆者はポーランド生れ、横浜の本派寺院の坊守さんで、欧州へは年数回行って布教…

(訳者・富山県高岡市利屋町31・専福寺)

